

二 輸出入禁止制限撤廃會議

3 「輸出入禁止制限撤廃條約第十七條末項ノ規定ニ基ク

同條約實施ニ関スル批准國會議事經過報告」

昭和四年十二月

輸出入禁止制限撤廃条約第十七条末項ノ規定ニ基ク
同条約実施ニ関スル批准国会議事経過報告^(編注)

目 次

- 第一章、本会議開催ニ至ル経路
- 第二章、議定書案作成ニ至ル迄ノ会議々事経過
 - 第一、独逸ノ批准寄託承認
 - 第二、条件附批准国ノ態度並波蘭及智恵古両国ノ態度
 - 第三、諾威ノ条約実施ニ関スル宣言
 - 第四、批准寄託ニ当リ為シタル米国政府ノ宣言
 - 第五、条約ノ解釈ト本会議ノ態度
 - 第六、印度代表ノ声明
- 第三章、条約実施議定書ノ確定及調印
 - 第一、条約実施議定書ノ確定
 - 第二、議定書ノ調印

輸出入禁止制限撤廃条約批准国会議經過報告

第一章、本會議開催ニ至ル経路

輸出入禁止制限撤廃条約補足協定第C条ハ条約ノ実施条件ニ関シ

一、条約ハ実施ノ為少クトモ予メ聯盟又ハ非聯盟国十八ヶ国ノ批准又ハ加入ヲ要スルコト

二、右批准ハ本年九月三十日迄ニ行ハルヘキコト

三、各締約国ハ其ノ批准又ハ加入ニ際シ同国ニ対スル条約ノ実施ヲ一定国（奥国外十三ヶ国）ノ批准条件附トナシ得ルコト

四、聯盟事務総長ハ一九二九年十月三十一日ニ九月三十日前ニ為サレタル批准寄託及加入ヲ各署名国及加入国ニ通告スルコト

等ヲ規定シ又同補足協定第D条ハ

一、前記第C条(四)ノ通告ニ依リテ同条(一)及(三)ノ諸条件、一九二九年九月三十日ニ充タサレタルコト明カナル場合ハ条約ハ一九三〇年一月一日ヨリ実施サルヘキコト

二、右第一項ニ反対ノ場合ハ条約第十七条末項ノ規定ニ拠ルヘキコト

ヲ規定ス而シテ本条約第十七条末項ハ

若シ右期限満了ニ際シ（即チ本年九月三十日）条約実施ノ為必要ナル批准ノ得ラレサル場合ハ聯盟事務総長ハ条約批准国タル聯盟及非聯盟国カ夫レニモ拘ラス右条約ノ実施ヲ希望スルヤ否ヤニ付右諸国ノ意見ヲ求ムルコト

ヲ規定ス

然ルニ本年九月二十五日（当時ノ批准国ハ十三ヶ国ニ過キサリキ）聯盟理事会ニ於テ独逸理事ハ九月三十日前二十八ヶ国ノ批准ヲ得ルコト困難ナル事情アリ從テ条約第十七条末項ノ規定ニ依ルノ必要アル所事態ノ複雑ナルニ鑑ミ書面ヲ以テ關係国ノ意見ヲ徵スルモ所期ノ結果ヲ得ルコト困難ナルヘキヲ以テ事務総長ニ必要アラハ關係国ノ會議ヲ十二月上旬招集スルノ權能ヲ認ムヘキコト及右會議ノ議長トシテ輸出入禁止制限撤廃會議々長タリシ和蘭ノ「コライン」氏ヲ任命センコトヲ提案シ理事会ノ承認スル所トナレリ

然ルニ本年九月三十日迄ニ条約批准ヲ了セルハ日、英、米、仏、伊、澳、白、丁抹、芬蘭、洪牙利、「ルクセンブルグ」、和蘭、葡萄牙、羅馬尼、瑞典、瑞西及「ユーゴスラヴィア」ノ十七ヶ国ニシテ前記補足協定第C条第一項所定ノ條約實施ニ必要ナル批准定足数（十八）ニ達セサルノミナラス、日、英、米、和蘭、瑞典、芬蘭、及葡萄牙ノ七ヶ国ヲ除ク他ノ十ヶ国ハ第C条第三項ニ基キ自国ニ對スル條約實施ヲ或特定国ノ批准ニ係ラシメ而カモ該特定国カ尽ク批准スルニ至ラサリシヲ以テ事態ハ更ニ一層複雑困難トナルニ至レリ（右批准国中中央歐洲ノ諸国ハ殆ント例外ナク條約實施ノ為波蘭及智惠古両国ノ批准ヲ条件トセルニ拘ラス右両国カ之ヲ為ササリシ結果困難ナル事態ヲ生シタルモノナリ）

依テ事務総長ハ前記理事会ノ決定ニ從ヒ十二月五日批准国会議開催ニ決シ關係国ヲ招請スルト共ニ白国政府ノ提議ヲ容レ署名国ニシテ未批准ナルモノヲモ之ニ参加方招請セリ會議ハ初メ寿府ニ開催ノ予定ナリシモ十一月五日ヨリ巴里ニ於テ外國人待遇ニ関スル國際會議開催セラレ約一ヶ月繼續ノ見込ナリシヲ以テ其後直チニ本件會議ヲ開催スルコト諸般ノ事情ヨリ好都合ナリトセラレ遂ニ巴里ニ開催セラル、コト、ナレリ

斯クテ會議ハ十二月五日午前十一時巴里海洋学々会（Institut Océanographique）ニ於テ「コライン」氏議長ノ下ニ開會セラレ日、英、米、仏、伊、独（独逸ハ十一月二十三日其ノ批准ヲ寄託セリ）澳、白、丁抹、芬蘭、洪牙利、「ルクセンブルグ」、和蘭、葡萄牙、羅馬尼、瑞典、瑞西、「ユーゴスラヴィア」ノ十八批准国ノ外埃及「エストニア」、印度、「ラトヴィ

ア」、諾威、波蘭、智惠古及土耳其ノ八署名国モ之ニ参加セリ（各国代表者氏名ハC. I. A. P. 39(2)参照）帝國政府ハ伊藤大使館參事官ヲ其ノ代表委員ニ任命シ之ニ出席セシメタリ

第二章、議定書案作成ニ至ル迄ノ會議々事經過

議長ハ先ツ會議開催ノ由来ヲ述ヘ各国カ協調ノ精神ヲ以テ條約ヲ死文ニ終ラシメサランコトヲ希望シテ開會ノ辭トナシ直チニ白国代表「ブルユネ」及芬蘭代表「ホルマ」両氏ヲ全權御委任狀審査委員ニ推挙シ會議ノ承認スル所トナレリ

第一、独逸ノ批准寄託承認

独逸ハ単ナル形式上ノ理由ニ依リ批准寄託期限タル九月三十日迄ニ之ヲ為シ得十一月二十三日漸ク右寄託ヲ了シタル処恰モ獸皮獸骨ノ輸出協定ニ関シ洪牙利カ同様ノ事態ニ在リシニ對シ同協定關係諸国ハ右洪牙利ノ遅延セル批准寄託ニ右カ期限前ニ為サレタルト同様ノ効力ヲ有スルコトヲ承認セルヲ以テ此ノ際独逸ニ對シテモ同様ノ態度ヲ採ラレ度ク實施議定書中ニ左記趣旨ノ一項ヲ挿入セラレ度キ旨独逸代表ヨリ提案セリ

「締約国ハ独逸ノ批准ニ對シ右カ予定期限内ニ実行セラレタル場合ニ於ケルト同様ノ効力ヲ認ムルコトヲ約ス」
右独逸代表ノ提案ハ何等ノ論議ナク會議ノ採択スル所トナレリ

第二、条件附批准国ノ態度並波蘭及智惠古両国ノ態度

前述ノ如ク會議ハ独逸ノ遅延批准ヲ承認セルヲ以テ茲ニ二十八ヶ国ノ批准ヲ得ルコト、ナリタルモ右十八ヶ国中七ヶ国ヲ除ク他ノ十一ヶ国ハ條約實施ノ条件ヲ附シ居リ而モ右条件ノ實現セラレサルタメ（是等諸国ノ要求スル波、智惠古ノ批

准寄託ナキヲ以テナリ)十八ヶ国ノ批准ニモ拘ラス之ヲ實現スルコト依然不可能ナルヲ以テ議長ハ所謂条件附批准国代表ニ対シ其ノ国カ批准寄託ニ当リ附シタル条件ヲ尚固執スルヤ否ヤ批准寄託後ノ事態変更等ノ為右条件ヲ撤回スルノ意思ナキヤ否ヤニ関シ各別ニ態度表明方ヲ求メタリ(目下ノ事態ニ依レハ波蘭、智恵古両国ノ批准ヲ飽ク迄要求スルヤ否ヤカ問題ナリ)

右ノ結果諸国代表ハ何レモ智波両国ニ関スル条件固執ヲ声明セルカ独逸兩國ハ必スシモ兩國ノ批准ヲ要セス若シ兩國ニシテ明年一月一日ヨリ行政的手段ニヨリテ条約ヲ實施シ得ハ足レリトシ白仏「ルクセンブルグ」等ハ条約ノ範圍内ニテ何等カノ手段ニテ兩國ノ参加ヲ容易ナラシムルノ方法ヲ講シ得ヘク之ヲ考慮審議スルニ吝カナラスト述ヘ又伊国代表ハ其ノ条件中、波智兩國ノ批准ハ之ヲ維持スルモ土耳其古ノ批准ハ之ヲ撤回スル旨ヲ声明シ元来土耳其古カ補足協定第C条第三項列記國中ニ加ヘラレタルハ伊国ノ主張ニ基キ其ノ理由ハ(一)伊土兩國通商關係ノ緊密ナルコト(二)兩國間ニハ通商條約ナク其ノ通商關係ハ勞山條約ニ通商條項ニヨリ規定セラレ居ルニ止ルコト、ノ二点ニ在リ而シテ最近右勞山條約通商規定ハ失効セルモ兩國ノ通商關係ハ依然旧ニ異ラス土耳其古ノ本條約加入ハ伊国ニトリ極メテ重要ナルモ本條約ノ實施ヲ容易ナラシメンカ為メ協調ノ精神ヲ以テ右土耳其古ニ関スル条件ヲ撤回スト説明セリ

斯クテ条件附批准国ノ其ノ条件ニ対スル態度ハ明カトナレルヲ以テ議長ハ次イテ波蘭智恵古兩國代表ニ其ノ地位説明方ヲ求メタリ

波蘭代表ハ條約ハ同国ニ対シ他締約国ニ与フル如キ充分ノ保障ヲ与フルモノナラストシ石炭肉類ノ輸出及鉄類ノ輸入統計ヲ挙げ條約第六條ニ基ク各国ノ留保ヲ不可トシ條約ノ基礎ハ狹隘ニ過クルヲ以テ更ニ之ヲ擴張シ自由ナルモノタラシムルヲ要スル旨ヲ述ヘ條約カ石炭ノ自由輸出及鉄類ノ輸入ヲ保障シ且家畜關係條約ニヨリ補足セラル、ニアラサレハ波蘭ノ批准ハ不可能ナリトシ從來此ノ点ニ関シ他國ト商議シ来レルモ遂ニ何等ノ結果ニ達セサリシ旨ヲ説明セリ。

智恵古代表ハ同国議會ニ二ヶ月前ニ解散シ約一ヶ月前総選挙ノ結果内閣瓦解シ未タ新内閣ノ成立ヲ見ス旧内閣ノ態度ハ新

内閣ノ態度ヲ拘束シ得サルヘク從テ同国ニハ斯ル重大問題ニ関シ其ノ代表ニ訓令ヲ与フルノ機關ナシト述ヘ同国ハ本條約ニ署名セルモ右ハ當時國際經濟會議直後ニシテ単ニ輸出入禁止制限問題ノミナラス關稅低下ニ関シテモ同會議ノ勸告ハ実行セラルヘキ希望ヲ有シ居リタル所右ハ全然予期ニ反シ各国關稅ハ極度ニ増加セラレ智恵古ノ輸出ヲ困難ナラシメタルコト大ニシテ殊ニ農業ノ危機ヲ招来セル旨ヲ説明シ急速批准ノ困難ナル次第ヲ述ヘタリ

右波蘭智恵古兩國委員ノ声明ヨリ其ノ批准ハ当分ニ之ヲ期待シ得サルコト明瞭トナリ會議ハ茲ニ一大困難ニ逢着シタレハ議長ハ本會議ヲ繼續開催スルモ何等利益ナキヲ看取シ議長、各国代表中經濟委員會委員タルモノ(即チ日、英、伊、白、瑞西、羅馬尼各代表)及無条件批准国代表ヨリ成ル一種ノ幹部會ヲ構成シ條約實施ノ態様ニ関シ内協議ヲナスコト可ナリトノ意見ナリシヲ以テ本會議ハ十二月六日ヨリ十三日迄休會スルコト、ナレリ但シ右ニ先チ會議ハ左記三点ニ関シ左ノ通り討議決定スル所アリキ

第三、諾威ノ條約實施ニ関スル宣言 (C. I. A. P. 35)

諾威国政府ハ九月二十三日附聯盟事務總長宛同国外務大臣書翰中ニ

「同政府ハ議會前會期中ニ本條約批准問題ヲ提出シ得サリシヲ以テ九月三十日迄ニ批准寄託ヲナスコト不可能ナルヘキモ條約ノ實施ハ何等同国ニ対シ制度ノ変更ヲ伴フモノニアラサレハ来ル一月ノ議會ニ於テ其ノ承認ヲ得ルコト確實ナリト信スルモ出来ル限り條約實施ヲ容易ナラシムル目的ニテ同政府ハ其ノ批准ニ至ル迄條約ノ規定ニ反スル何等ノ手段モ実行セサルコトヲ約ス依テ締約国カ右ノ事態ヲ考慮シ其ノ遲延批准ニ対シ之カ期限内ニ為サレタルヨリ生スルト同一ノ効力ヲ認メンコトヲ希望スル」

旨ヲ申送り當時聯盟事務總長ハ右ノ次第ヲ各關係国ニ通知シ置キタリ然ルニ本會議ニ於テ諾威代表ハ更ニ右同国政府ノ要求ヲ繰返シ「同国ハ明年一月一日ヨリ條約ヲ實施スヘキ」旨ヲ宣言シ之ヲ批准ト同一ニ認メラレンコトヲ求メタルカ

會議ハ何等ノ論議ナク右要求ヲ承認セリ

第四、批准寄託ニ当リ為シタル米國政府ノ宣言 (C. I. A. P. 37)

米國政府ハ本年九月三十日批准書寄託ニ当リ「米國大統領ハ同國代表者カ本條約署名ニ当リテ為シタル宣言ヲ留保シ且ツ監獄ニ於テ製造セラレタル物品ノ輸出入禁止制限ハ本條約適用外ナリトスル議定書第七節ノ規定ハ強制労働又ハ奴隷労働ニ依リ作製セラレタル物品ヲモ包含スル了解ノ下ニ之ヲ批准スル」旨ヲ聯盟事務總長ニ通告セリ

右米國政府通告ハ當時聯盟事務總長ヨリ各國政府ニ通知済ノ所本會議ニ於テ独逸代表ハ前記米國力條約署名ニ当リ為シタル宣言第二点ハ「本條約ハ各締約國ノ税率制度、通商條約締結方法、此等ノ適用ヲ確保スル実行手段、『ダンピング』奨励金等ノ影響ヲ緩和スル為ノ手段等ヲ排除スルモノニ非サル旨」ノ留保ヲ為シ居ル処、同一權利カ独逸政府ニモ認めラレサル限り之ヲ受諾シ得サル旨ヲ声明セリ

右ニ対シ伊國委員ハ本會議ノ権限ハ條約第十七條末項ニ基キ其ノ実施如何ヲ審議決定スルニ在リ所謂條約ノ内容ヲ論議スヘキニアラス然ルニ若シ會議カ独逸代表ノ要求ヲ容ル、ニ於テハ他國例ヘハ伊國自身モ同一要求ヲ提出スヘシト述ヘ之ニ深く立入ラサランコトヲ求メタルカ、独逸代表モ熟慮ノ後前記宣言第二点ハ「各締約國ノ斯々ノ手段ヲ排除スルモノナラス」ト云フヲ以テ独逸カ締約國タル以上米國ニ対スル關係ニ於テ同一權利カ確保セラレアルモノト信スルヲ以テ前述ノ要求ヲ固執セサルヘキ旨ヲ述ヘ米國代表モ右ノ見解ハ同國ノ見解ト一致スルモノナリト声明シ會議ハ之ニテ本件討議ヲ打切レリ

第五、條約ノ解釈ト本會議ノ態度

(イ) 鉄屑 (ferailles) 及裝飾用羽毛 (plumes de parure) ノ解釈

仏國代表ハ鉄屑及裝飾用羽毛ト云フモ各國ニ於テ必スシモ同一物品ヲ指サス不尠ナカラサルニ付此ノ機會ニ於テ之ニ一定ノ意義ヲ与フルコト好シキ旨ノ希望ヲ表明セルカ伊國代表ハ本會議ノ権限ヲ述ヘテ解釈問題ヲ取扱フヘキニアラスト主張シ本件審議ニ至ラス

(ロ) 「エストニア」ノ要求 (C. I. A. P. 38)

「エストニア」政府ハ本年十一月二十一日附聯盟事務總長宛同國外務大臣書翰ヲ以テ同國ニ於テハ牛乳製品及卵ノ輸出監督及之カ輸出ニ対スル特別許可制度存スル所右ハ本條約ノ規定ト牴觸セサルヤ否ヤ不確定ナルヲ以テ政府ハ議會ニ対シ未タ本條約批准請求ニ至ラサル次第付本會議ノ機會ニ於テ具體的決定ヲ与ヘラレ度キ旨要請シ来レリ
本問題ハ既ニ第二回輸出入禁止制限撤廃會議ニ於テ論セラレタル処ニシテ當時會議ハ條約ノ解釈ヲ与フルノ権限ナシトノ理由ヲ以テ何等ノ決定ニ至ラサリシカ（第二回輸出入禁止制限撤廃會議報告書第二節第四參照）今回モ議長ハ或ル國ニ存スル一定ノ規則カ條約ノ規定ニ牴觸スルヤ否ヤニ関シ意見ヲ決定スルハ會議ノ権限ニ屬セスト述ヘ之カ解決方法トシテ先ツ「エストニア」ハ本條約ヲ批准シ同時ニ同國ノ本件規則ハ條約ノ規定ニ牴觸スルモノナラスト認ムル旨ノ宣言ヲ附スヘク右宣言ニ対シ他締約國ヨリ異議ナキ場合ハ右留保ハ承認セラレタルモノトナスヘク若シ他國ノ異議アルニ於テハ條約第八條ニヨリ紛争解決ノ手段ヲ採ルヘシト「エストニア」代表ニ勧告セリ

「エストニア」代表ハ若シ會議トシテ意見ヲ發表スルコト困難ナルニ於テハ同國ノ宣言ヲ了承スルニ止メラレ度シト要求セルモ議長ヨリ將來為サル、批准ニ附屬スヘキ宣言ヲ了承スルコト困難ナリトシテ之ヲ拒絕セリ

右ニ対シ曰、仏、伊、白等諸國代表ハ議長ノ意見ヲ支持シ「エストニア」ノ制度ニシテ輸出商品ノ品質ヲ一定ノ程度ニ保持シテ其ノ声価ヲ保ツト共ニ消費者ノ利益ヲ図ルコトヲ目的トスル以上條約第三條ノ規定ニモ鑑ミ條約ニ牴觸スルモノトハ思考セラレス現ニ斯ル制度ハ多數國ノ実行シツ、アル処ナレハ同國カ批准ニ際シ議長ノ勧告セルカ如キ宣言ヲ附スルモ異議ヲ唱フルモノアルマシク議長ノ勧告ヲ容レンコトヲ求メタルニ「エストニア」代表モ同國政府ハ右

諸代表ノ声明ヲ以テ満足スヘク唯本件一切ノ討議ヲ議事録ニ止メラレンコトヲ求メ以テ本問題ノ審議ヲ打切レリ

第六、印度代表ノ声明

印度代表ハ政府ノ訓令ニ基クトテ本邦ノ実行スル米ノ輸入禁止制度ニ関シ右カ条約ノ精神ニ反スルモノナル旨ヲ述ヘ同
国政府カ帝國政府トナシタル交渉ノ結果ヲ叙シ帝國カ条約第六條第一項ニヨリ米ノ輸出入ニ関シ留保ヲ認メラレ居ルニ
モ鑑ミ将来更ニ繼續実行セラルヘシト信セラル、処印度ハ本件禁止制度ノ存スル限り本条約ノ批准不可能ナル旨ヲ声明
セリ右ニ対シ伊藤代表ハ帝國政府カ右ノ手段ヲ実行スル正当ナル理由ノ存スル旨ヲ述ヘ本問題ハ會議ノ議題ニ非ス茲ニ
論議スヘキ性質ノモノナラサレハ単ニ右印度代表ノ声明ヲ了承スルニ止ムヘシト応酬シ置ケリ

第三章 条約実施議定書ノ確定及調印

第一、条約実施議定書ノ確定

(A)、議定書第一回審議

第二章第二所述ノ如ク議長ハ會議ノ行詰リヲ看取シタルヲ以テ一種ノ幹部会ヲ構成シ条約実施ノ態様ニ関シ内協議ヲ
ナシタル結果十二月十三日ノ本會議ニ一ノ議定書案ヲ提出シ本案起草者ノ意思ハ条約ヲ死文ニ終ラシメサランコトヲ
主眼トシタルモノニシテ其ノ理由ハ輸出入禁止制限問題ノ解決ニ達センカ為及本問題ト關稅休戰會議トノ密接ナル關
係ニ顧ミ前者ノ未解決ナル限り後者ノ成功ヲ期待シ得サルコト明ナル旨説明セリ本案ノ要領ハ左ノ如シ
前文—条約実施ノ条件実現ニ至ラサリシモ之ヲ実施スル為左ノ諸点ヲ約スル旨ヲ規定ス
第一条—十一月二十三日ニ為サレタル独逸ノ批准寄託ニ九月三十日前ニ為サレタルト同様ノ効力ヲ認ム

第二条—諾威ハ明年一月一日ヨリ条約ヲ実施スル約束ニテ同國ノ後日ノ批准ニ九月三十日前ニ為サレタルト同様ノ効
力ヲ認ム

第三条—波蘭、智恵古兩國カ明年五月三十一日前批准寄託ヲナス時ハ右ニ九月三十日前ニ為サレタルト同様ノ効力ヲ
認ム

第四条—独、奥、白、丁、米、芬蘭、仏、英、洪、伊、日、「ルクセンブルグ」諾威、蘭、葡萄牙、羅、瑞典、瑞西、
及「ユーゴスラヴィア」ハ明年一月一日ヨリ条約ヲ実施ス

第五条—条約ノ実施ニ関シ波蘭、及智恵古ノ兩國又ハ其ノ一國ノ批准ヲ条件トセル諸國ハ右兩國又ハ其ノ一國カ明年
五月三十一日迄ニ批准ヲナシ条約上ノ義務ヲ負担スルニアラサレハ明年七月一日以後条約ニ拘束セラル、コトナシ
但シ右諸國ハ明年六月十五日迄ニ聯盟事務總長ニ対シ本条前項ノ規定ヲ援用スルノ希望ヲ表明セサル限り七月一日
以後ト雖モ第四条所載ノ無条件批准國ト同一条件ニ於テ条約ニ拘束セラルヘシ

第六条—一九三一年乃至一九三四年間毎年六月三十日ニ於テ無条件実施國又ハ条件附實施國ニシテ右条件ノ満足セラ
レタル國ノ数合計十八ニ達セサルニ於テハ第四条所載ノ諸國ハ事務總長ニ通告ヲ發シ本議定書上ノ義務ヲ免カレ得
ヘシ

波蘭又ハ智恵古カ第五条所定期限内ニ批准セル時亦同シ

第七条—第六條規定ハ本議定書ノ日附以後条約ニ加入セル一切ノ國ニ適用セラルヘシ

諾威代表ノ宣言—条約ノ批准寄託ヲ実行スル迄諾威政府ハ明年一月一日ヨリ条約及補足協定ノ規定ヲ行政的手段ニ依
リ実施スルコトヲ約ス

右案ニ付會議ノ十二月十三日午前第一読會 (C.I.A.P. 41) 午後第二読會 (C.I.A.P. 41 (I)) ヲ為セルカ主トシテ辭
句ヲ修正シテ事態ヲ明瞭ナラシムルニ止リ内容ノ變更ヲ見タルモノ殆トナシ議論ノ要点左ノ如シ

(イ) 第四条―本条ハ列記国間ニ明年一月一日ヨリ条約実施ヲ規定スル所洪牙利代表ハ本形式ニ依レハ同国ハ兎ニ角一応条約ヲ実施スルコト、ナルヘキモ同国ノ法制ニ依レハ実施ノ為ニハ其ノ条件ノ充タサル、コトヲ必要トスルヲ以テ本形式ヲ採用スルヲ得ス依テ列記国名中ヨリ洪牙利ヲ除クト共ニ宣言ヲ附シ第四条及第五条ト同一ノ効果ヲ生スルコト、セラレ度キ旨ヲ希望シ左記宣言案ヲ提出セリ

洪牙利代表ハ同国法制ノ特別事情ヨリ議定書第四条及第五条ヲ受諾スルコトヲ得サルニ鑑ミ議定書ノ他ノ条項ヲ受諾スルト共ニ同国政府ハ左記条件ニ於テ条約ハ明年一月一日ヨリ実施セラレタルモノト看做スヘキ旨ヲ宣言ス

(一) 独、奥、伊、羅、瑞西及「ユーゴスラヴィア」カ明年七月一日以後条約ノ規定ニヨリ拘束セラル、コト

(二) 波蘭及智恵古両国カ明年五月三十一日前ニ条約ヲ批准シ条約實施ヨリ生スル義務ニ準拠スルコト

會議ハ右洪牙利代表ノ希望ヲ容レ第四条ヨリ同国名ヲ削除シ別ニ第二項ヲ設ケテ洪牙利ニ対スル条約實施ハ右宣言ノ方法ニ拠ルコトヲ規定スルト共ニ議定書ノ終ニ右宣言ヲ附スルコトニ決定セリ

(ロ) 第五条第二項―本項ハ条件附批准国ハ波、智両国無批准ノ場合ト雖モ一定ノ手續ヲ採ラサル限り条約ニ拘束セララル、コトヲ規定スル所仏国代表ハ右ハ恰モ第一項ノ趣旨ニ反シ条件附批准国ニ義務免除通告ノ特別ナル義務ヲ負加シ条約實施ノ精神上ノ圧迫ヲ加フルヤノ感アルヲ以テ不可ナレハ之ヲ修正シ智、波、両国無批准ノ場合条件附批准国ハ自然的ニ拘束ヲ免カレ唯右ノ利益ヲ放棄シ依然締約国タラントスル国ハ其ノ旨事務総長ニ通告スルコト、ナスヘシト提案セリ伊国代表ハ仏国案ハ条件附批准国カ条件ヲ附シタル元来ノ趣旨ニ合シ事實上法律上正当ナリトテ之ヲ支持シ伊藤代表ハ条約實施繼續ヲ目的トスル本會議ノ精神ニ鑑ミ且第六条ハ廢棄ニ関シ無条件批准国ニモ一定ノ通告義務ヲ負加シ居ルヲ以テ公平ノ見地ヨリ顧ルモ仏国案ノ如ク条件附批准国ニ廢棄ノ便宜ヲ認ムルコト不可ナリトテ原案ヲ支持シ英国代表亦伊藤代表ト意見ヲ同ウセリ依テ議長ハ原案及仏国案ヲ投票ニ附セル結果原案ノ賛成五、仏国案賛成六、多数説ニ賛成ナルモノ六（棄權及欠席各一）ヲ得タルカ議長ハ直チニ本件ヲ決定セス右両案ニ

付各代表ハ政府ノ意見ヲ求メタル後採否ヲ決定スルコト、ナセリ

尚第二読會ニ於テ瑞西代表ハ同国ハ条約ノ實施ヲ独、仏、伊、洪牙利及智恵古ノ批准ニ係ラシメ居リ又独、仏、伊等ハ波蘭及智恵古両国ノ批准ヲ要求シ居ルヲ以テ第五条第一項ニ依レハ明年五月三十一日迄ニ智恵古一国ノミカ批准シタル場合独仏伊ハ条約ニ拘束セラレサルニモ拘ラス瑞西ノミハ之ヲ余儀ナクセラル、ノ結果トナリ極メテ都合ナリト主張シタルヲ以テ議長ヨリ「或一國カ条約實施ニ関シ他特定國ノ實施ヲ条件トセル場合該國ハ右特定國自ラ条約ニ拘束セラレサル限り明年七月一日以後本条約ニ拘束セラル、コトナシ」トノ趣旨ノ一項ヲ挿入センコトヲ提案シ會議ハ之ヲ承認セリ

(イ) 第六条―第六条ハ「無条件實施国又ハ条件附實施国ニシテ右条件ノ満足セラレタル国數合計十八ニ達セサル場合各國ハ条約ヲ廢棄シ得ヘキ旨」ヲ規定スル所白国代表ハ条約實施国ハ右二種類ノ国ニ止ラス更ニ第三種ノ国即チ第五条第二項ニヨリ条件ノ實現セラレサル場合ニ於テモ（即チ波蘭智恵古両国又ハ其ノ一國ノ批准ナキ場合ニ於テモ）条約ヲ實施スヘキ國アルヘク此ノ種ノ國ヲモ本条ニ包含スルコトヲ要スト述ヘ事務局法律部員モ右ニ賛成ス

右ニ対シ英國委員ハ原案ノ意思ハ正ニ右第三種ノ國ヲ規定ヨリ除外セントスルニ在リトシ即現在実効的批准（無条件批准）ヲナシタル國八ヶ國（諸威ヲ加フ）アル処若シ条件附批准国ニシテ而モ右条件ノ實現セラレサル國五ヶ國カ近キ将来ニ事態改善セラルヘキ希望ヲ以テ第五条第二項ニ依リ一ヶ年ノ予定ヲ以テ条約ヲ實施スルニ至リタリト仮定シ他方目下未批准ナル五ヶ國カ条約ニ加入シタリト假定センニ白国代表案ニ依レハ右五条件附批准国ハ其ノ希望ニ反シ条件實現セラレサルニモ拘ラス条約第十八条所定ノ五ヶ年間条約ニ拘束セラル、結果トナルヘシ原案ハ斯ル場合ヲ避ケ条件附批准国ニシテ右条件ノ實現セラレサリシ國ハ全ク自由タラシメントスルモノナル旨ヲ説明セリ又伊藤代表ハ単ニ「締約國ノ數十八以下トナル場合」トセハ明瞭ニシテ各種ノ國ヲ類別スルノ要ナシト提案セルカ結局論議ノ末本項ハ辞句曖昧ニシテ前記英國代表所述ノ意思ヲ發表スルニ足ラサレハ更ニ之ヲ明確ナラシムル要ア

リトシ議長ハ左記形式ヲ提出セリ

「第四条所載ノ各国ハ一九三一年六月三十日又ハ一九三二年乃至一九三四年間毎年同一期日ニ於テ聯盟事務総長ニ対シ通告ヲ発シ以テ現議定書上ノ義務ヲ免カレ得ヘシ但シ無条件批准国或ハ条件附批准国ニシテ其ノ条件ノ実現セラレタル国ノ数十八以下ナラサル場合ハ右権限ヲ行使シ得ス

若シ一國カ其ノ附シタル条約実施条件ノ実現セラレサルニモ拘ラス本議定書第五条第二項ノ規定ニ依リ条約ヲ繼續実施スル場合ハ此ノ事実ニ依リ該条件ハ実現セラレタルモノト見做スコトヲ得ス」

右ノ新形式ハ會議一般ノ承認スル所トナレリ

(B) 議定書第二回審議

以上ヲ以テ議定書案ニ関シ一応各代表ノ意見一致セルヲ以テ(第五条第二項ハ原案ト仏国案トアリ其ノ何レヲ採ルヤハ後日ニ決スルコト、ス)右ニ付各代表ハ更ニ政府ノ訓令ヲ求ムルコト、シ其ノ為十二月十四日より十八日迄會議ヲ中止セルカ十九日再會シ二十日午前迄更ニ議定書案ノ審議ヲ反覆セリ(十九日ノ討議ハC.I.A.P. 41(2)ニ拠リ二十日午前ハC.I.A.P. 41(3)ニ拠リ)討議ノ要点左ノ如シ

(イ) 智恵古代表ヨリ同国ハ国内問題解決後明年五月三十一日迄ニ条約ヲ批准シ得ヘキモ(C.I.A.P. 44)

(一) 智国政府ハ同国通商ニ重要ナル諸国殊ニ旧奥洪国ヨリ分立セル諸国間ニ(波蘭モ加フ)条約ニ実施セラレヘキノ条件ヲ固執ス

(二) 条約ニ関スル協議ニ於テ波蘭ニ与ヘラルヘキ一切ノ利益即チ条約第六条ニ基ク新ナル利益第五条ノ解釈若クハ其他一切ノ利益ハ智国ニモ同等ノ權利ヲ以テ確保セラルヘシ

(三) 智国政府ハ本會議カニ二国間家畜衛生条約ノ義務的締結ヲ勧告センコトヲ求ム

(四) 智国政府ハ同国ノ或ル種生産事業ノ困難ナル事態ヨリ条約第五条ニ認ムル例外手段ヲ一定期間中実行スルコトヲ

ルヘキヲ注意ス、コノ為特ニ同国農業及自動車工業ノ危機ニ関シ注意ヲ喚起ス

トノ宣言ヲナセルカ波蘭及「ユーゴースラヴィア」代表共ニ會議カ前記第三点ヲ考慮センコトヲ求メタリ

右ニ対シ議長、英国瑞西其ノ他ノ代表ヨリ右第三点ヲ了承スルコト會議ノ権限ヲ超越スルモノニシテ単ニ之ヲ議事録ニ止ムルニ過キストシ結局投票ニ附シタル結果本問題ハ會議ノ権限外ナリトテ討議セサルコトニ決ス

(ロ) 曩ニ第五条第二項ニ関シ原案ト仏国案(C.I.A.P. 42)トアリタル処其ノ何レヲ採用スルヤヲ決スヘキ処仏国代表ハ其ノ修正案不採用ノ節ハ調印不可能ナル旨ヲ述ヘ其ノ案ハ議定書ノ目的ヲ合シ多数ノ署名ヲ得ルコトヲ容易ナラシムルモノナリト説明シ結局投票ノ結果右仏国修正案採用ニ決ス(右投票ノ際修正案ニ明カニ反対ノ態度ヲ示セルハ和蘭代表ノミニシテ他ハ修正案ヲ可トスルカ其ノ何レニテモ可ナリトスルモノ多カリキ)

(ハ) 次ニ議長ハ各代表ヲ指名シ議定書ニ署名ノ用意アリヤ否ヤヲ問ヒタル処米、芬蘭、羅馬尼、瑞典各代表ハ訓令未着ノ故ヲ以テ(十二月十九日午後)翌日ニ予定セラレ居ル共同調印ニ参加シ得ルヤ否ヤ不明ナリトシ他ノ十五ヶ国代表ハ何レモ署名ノ用意アル旨ヲ声明セルカ伊藤代表ハ我国法制上、上奏裁可ヲ得ルノ要アルヲ以テ「アド、レフェレンダム」ニテ署名スヘク從テ明年一月一日ヨリ実施スルコト困難ナルヘキモ条約ノ内容ハ既ニ我國ノ実行シ居ル処ナレハ実施ノ曉ハ明年一月一日ニ遡リテ効力ヲ発生セシムルモ何等差支ナシト説明シ會議ハ之ヲ了承セリ

前述ノ如ク米国外三国ノ調印不明トナレルニ付伊国代表ハ議定書第四条ハ各国ノ署名ヲ前提トシ設ケラレタルモノナル処若シ不調印国アルニ於テハ事態ノ変更ヲ来スヘク更ニ請訓ノ要アル旨ヲ述ヘタルニ議長ハ伊国ハ条件附批准ヲナシタルヲ以テ他国ノ不調印ニヨリ右条件実現ニ至ラサレハ第五条ニヨリ充分ノ自由ヲ保障サレ居ル旨ヲ説明セルカ英国代表ハ寧ろ第四条ノ規定ヲ變更シ国名ヲ列記セス「条約ハ明年一月一日ヨリ本議定書署名国ニヨリ実施セラルヘシ」ト修正センコトヲ提議シ十二月二十日午前會議ハ右修正案ヲ可決セリ(蓋シ前記各代表ノ声明ニヨリ調印国ノ数及国名大体明瞭トナリタルヲ以テ国名ヲ列記スルモ右英国案ニ依ルモ大ナル差異ナキ為會議ハ容易ニ之ヲ

可決セルモノナリ)

然ルニ二十日午前ノ會議ニ於テ米國代表ハ其ノ日朝署名ノ訓令ヲ受ケタル旨ヲ披露シタルヲ以テ調印不明ナルハ伊國(前述ノ如ク未調印アルヲ以テ再度請訓セルモ回答未着ノ為)芬蘭、羅馬尼、瑞典ノ四國トナリタル処右四ヶ國代表ヨリ二十日午後ノ調印ニハ間ニ合ハサルヘキモ兩三日中ニハ回訓ニ接シ署名スルコト、ナルヘキ旨陳述セルヲ以テ右ノ場合ニ對スル措置トシテ議長ハ「本議定書ハ本年十二月三十一日迄右四ヶ國ニ依リ署名セラレ得ヘキ旨」ノ規定ヲ新ニ可決セル第四条ニ追加センコトヲ提案セリ右ニ對シ白國委員等ハ特定國ニ對スル此ノ種ノ規定ヲ面白カラストシ若シ前記ノ諸國ニシテ兩三日中ニ(即チ十二月二十三、四日頃迄ニ)署名シ得ハ右ハ共同調印ト同時ニ為サレタルモノト見做スヘク之ハ議定書中ニ特別規定ヲ要セス會議ノ決定トシテ議事録中ニ止ムルヲ以テ足り此ノ點ニ関シテハ既ニ先例モアル旨ヲ述ヘ會議ハ之ノ方法ヲ採択シ十二月二十四日午後七時迄ニ為サレタル署名ハ議定書作成ノ日(即チ十二月二十日)ニ為サレタルモノト見做ス旨ヲ決シ之ヲ議事録中ニ留ムルコト、セリ其ノ他會議ハ數個ノ辞句上ノ修正ヲナシ以テ議定書案ヲ可決採択セリ

第二、議定書ノ調印

前記ノ經過ヲ經テ會議ハ十二月二十日議定書ヲ可決シタルヲ以テ同日午後六時共同調印ヲ行ヒ閉会セリ右共同調印ニ參加セルモノ日、英、米、仏、獨、澳、白、丁抹、洪牙利、「ルクサンプルグ」和蘭、葡萄牙、瑞西、「ユーゴースラヴィア」及諾威ノ十五ヶ國ナリキ

尚本議定書作成ニ當リ會議ハ成ルヘク其ノ權限内ニ於テ議定書ヲ作成シ新ナル批准ヲ要セス代表ノ署名ヲ以テ直チニ實施シ得ヘキモノタラシメンコトニ力メタリ

元來今回ノ會議ハ補足協定第D条及條約第十七條ノ規定ニ依リ開催セラレ其ノ目的ハ條約ヲ實施スルヤ否ヤヲ決定スル

ニ在リ從テ條約實施ノミニ關スル取極ヲナスニ於テハ本條約ノ予見セル所ヲ實行スルニ過キスシテ其ノ權限ハ條約規定ノ範圍ヲ超ユルモノニアラサルノミナラス議定書ノ規定夫レ自身モ凡テ條約實施ノ便法ヲ定ムルモノニ過キスシテ本條約ノ規定ヲ變更スルモノニアラス議定書第五條及第六條ハ一定ノ條件ヲ以テ條約ノ失効スルコトヲ予見シ條約第十八條モ一定ノ場合ニ締約國ハ條約上ノ義務ヲ免除セラル、旨ヲ規定スルモ右兩規定ハ何等相矛盾スルモノニアラサルノミナラス第十七條ハ條約實施ノ便法ヲ講スルニ當リ何等ノ制限ヲ附シ居ラサルヲ以テ議定書ノ規定ハ條約規定ノ範圍ヲ超越スルモノニアラス又條約ノ規定ニ矛盾スルモノニモアラス依テ本議定書實施ノ為ニハ特別批准ヲ要セストノ意見會議全體及聯盟事務局法律部ノ一樣ニ有セル所ナリキ

編 注

本報告書は、昭和四年十二月二十七日付在パリ伊藤(述史)國際連盟帝國事務局長代理より幣原(喜重郎)外務大臣宛公信普通連本公第八二二号によって本件會議の報告書として送付されたものであり、同事務局の門脇

(季光) 外交官補が起草した。